

## 会 議 録

名 称	令和元年度 目黒区廃棄物減量等推進審議会（第1回）
日 時	令和元年7月30日（火）午前10時～正午
会 場	目黒区総合庁舎本館1階 E会議室
出席委員 （敬称略）	安井、佐藤、いいじま、金井、斉藤（優）、原、松澤、小林、亀甲、中村、高林、岩城、日比野、小杉、稲生、篠塚
区側職員	本橋環境清掃部長、榊原清掃リサイクル課長、佐藤環境保全課長、大迫清掃事務所長
傍 聴 者	1名
配布資料	資料1 第10期目黒区廃棄物減量等推進審議会委員名簿（令和元年7月1日現在） 資料2 会議の公開等の取扱いについて（案） 資料3 目黒区廃棄物減量等推進審議会条例、同施行規則 資料4 令和元年度審議会スケジュール（案） 資料5 目黒区一般廃棄物処理基本計画（概要版） 資料6 目黒区分別収集計画（第9期）について 資料7 普及啓発事業について
会議次第	<p><b>1. 開 会</b> 20人中、出席者は16人であり、半数以上の出席があるため定足数を満たしており、会は成立する。</p> <p><b>2. 委嘱状交付</b></p> <p><b>3. 区長あいさつ</b></p> <p><b>4. 委員紹介</b></p> <p><b>5. 区職員の紹介</b></p> <p><b>6. 会長・副会長選出</b> 委員のうち互選により下記のとおり、会長、副会長を決定した。 会長：安井委員、副会長：庄司委員。</p> <p><b>7. 議題</b> 以下、発言者名・名称は下記のとおり表記する。 環境清掃部長・・・・・・・・・・部 長 清掃リサイクル課長・・・・・・リ課長 清掃事務所長・・・・・・・・・・事務所長 環境保全課長・・・・・・・・・・環課長</p> <p><b>（1） 審議会の進め方と今年度のスケジュールについて</b> リ課長 （資料2～4により説明） 委員了承。</p> <p>会長 9月26日の施設見学について、初めての方はぜひ参加していただきたい。プラスチック製品のリサイクルルールなど、現地を見学すると改めて気づきがあると思う。</p> <p>委員 施設見学会の所要時間について教えていただきたい。</p> <p>リ課長 現在のところ9時15分総合庁舎出発、16時総合庁舎解散の予定で、午前中央防波堤埋立地最終処分場、午後京浜島リサイクルセンターを見学する予定。</p> <p>委員 建替え中である目黒清掃工場には見学に行かないのか。</p> <p>リ課長 目黒清掃工場見学の予定はないが、案としてお示ししている2か所以外に見学希望の場所があれば、オピニオンペーパー等でご意見頂戴し、検討したい。</p> <p>委員 「オピニオンペーパー」という言葉が使われているが、用紙にその言葉が表記されていないので分かりづらい。説明を付けたり、別の表題にするなど工夫が必要。</p>

	<p>リ課長 ご意見を参考にさせていただきたい。 (傍聴者入場)</p> <p>(2) 目黒区一般廃棄物処理基本計画について</p> <p>リ課長 (資料5により説明)</p> <p>会長 目黒区一般廃棄物処理基本計画(以下「計画」という。)はどれぐらいで作り直しているのか。</p> <p>リ課長 概ね5年ごとの見直しを実施している。最初の計画は平成12年度からの12か年計画であったが、7年で見直しとなった。次に平成19年度から10か年の計画を策定したが、9年で見直しとなり、現在は平成28年度からの10か年計画を運用している。見直しは必ずしも5年ごとということではなく、計画の進捗状況や国内外の動向等を踏まえたうえでその都度見直しをしているところである。</p> <p>委員 計画の重要施策4「新たな資源回収のあり方の検討」で、リサイクル率については31.7%を目標とする、としている。資料6及び7では約32%となっているが、数字の整合性や考え方はどうなっているのか。</p> <p>リ課長 ごみ減量の数値等と同じく四捨五入して整数化し、皆様に理解しやすく、イメージしやすくしている。</p> <p>委員 整数化についての補足説明がないと、迷う方がいるかもしれない。工夫が必要。</p> <p>会長 「目標」としては、精度の高い数値設定が必要かもしれないが、「ゴール」としては、整数で示す場合がある。本来は使い分けが必要。「ゴール」に対応する日本語が存在しないので、「ゴール」も厳密な数字になりやすいが、分かりやすい整数の数字で示すのもよいのではないかと感じる。</p> <p>委員 「3R(スリーアール)」、「2R(ツーアール)」、「リデュース」「リユース」、「リサイクル」、「発生抑制」、「再使用」、「再生利用」と資料にいろいろな表現が出てきており、言葉の定義が分かりにくい。</p> <p>リ課長 3Rとは「リデュース(発生抑制)」、「リユース(再使用)」、「リサイクル(再生利用)」のことを指し、2Rとは「リデュース」、「リユース」を指す。近年は2Rへの優先的な取組が求められている。区でも2Rを重点的に取り上げているが、全体的にはリサイクルも含めた3Rへの取組を、区民に普及啓発している状況である。</p> <p>委員 私達が町レベルで取り組んでいるのはリサイクルだが、リサイクルには重点を置かなくてもよい、ということか。</p> <p>リ課長 リサイクルを否定するものではなく、2Rはあくまでも優先順位の考え方である。まずはリデュース(発生抑制)、リユース(再使用)、最後にリサイクル(再生利用)という考え。リサイクルは必要がない、ということではない。</p> <p>会長 中国が廃プラスチックの輸入禁止をして以来、日本国内に廃プラスチックがあふれかえっており、廃プラスチックは日本国内でリサイクルするしかない状況に追い込まれている。このような状況のなかで、リサイクルを優先するという考えはないのではないかと。まず、ごみは減量することが重要。プラスチックはなるべく使わない。この考え方が主流になっていくだろう。</p> <p>委員 委員を務めて3期目になるが、リサイクルとリデュースの区別についてようやく意味が理解できたところである。一般的に言葉や内容の意味の理解が不足していると思うので、理解を深められるような提案も必要かと思う。</p> <p>委員 昨年9月の本会議での区側回答において「中国の廃プラスチック輸入禁止の影響は目黒区にはない」「目黒区で排出された廃プラスチックは全て国内でリサイクルされている」とあった。そのような状況のなかで、リサイクルではなく2Rに重点を置くということ、区民に分かりやすく説明する必要がある。</p> <p>リ課長 本日配布資料のなかの「めぐろ買い物ルール」チラシを見ていただくと、リデュース</p>
--	--

	<p>(発生抑制)とリユース(再利用)に重点を置いた具体的な取組を案内している。どういった行動がリデュース、リユースにつながるのか、区民に分かりやすい形での発信を目指した内容にしているが、今後もより理解しやすい内容の印刷物や啓発品作成等、工夫しながら啓発に取り組みたい。</p>
委員	<p>「リデュース」という言葉がまず難しい。特に小さいお子さんや高齢者のかたには理解しづらい。あえて「R」にこだわる必要があるのか。「分かりやすさ」が何よりも重要。言葉や内容が理解できないと、第一歩の行動につながらないのではないかと。</p>
リ課長	<p>委員のご意見、肝に銘じたいと思う。「R」や「リデュース」等、日本語訳につながりにくい部分があると思う。今後の参考とさせていただきたい。</p>
会長	<p>区の施策として、3Rから2Rに重点が少しずつスライドしているということである。</p>
委員	<p>3Rから2Rにいきなりスライドするというのではなく、スライドするための「準備期間」が必要なのではないかと。</p>
会長	<p>ご意見の通りではあるが、日本では国内外におけるごみの危機的状況について知る機会が少なく、一般市民が現状を理解し難いように感じている。なぜ2Rが重点となるのか、区からも区民に対してより多くの情報提供が必要である。</p>
委員	<p>リサイクルは重要だが、その処理費用が莫大であることはあまり知られていない。私達のグループでは、ごみや環境問題について学習したことをイベントで展示しており、ここ2年間はマイクロプラスチックの学習に取り組んでいる。プラスチック問題は今すぐ取り組んでも間に合わないくらい喫緊の課題となっているのを感じる。プラスチックも含め、ごみ減量にはリデュース(発生抑制)が最も重要。消費者がごみを排出しないのには限度があるので、事業者責任をより明確にし、消費者(区民)・事業者・行政が一体になって取り組んでいくことが必要だと思う。</p>
委員	<p>食品ロス削減については計画に触れられていないが、「食品ロスの削減の推進に関する法律」(以下「法律」という。)交付後の区取組について、フードバンクの支援も含めて教えてほしい。</p>
リ課長	<p>法律が公布されたのが令和元年5月なので、平成28年3月に策定した計画には食品ロス削減に重きをおいた内容は盛り込めていない。食品ロス削減の取組は、これまで「めぐろ買い物ルール」のなかで取り組んできた内容であったが、さらに取組を強化していきたいと考えている。具体的には、これまでエコライフめぐろ推進協会主催で実施しているフードドライブを、今年は清掃リサイクル課が主体となってイベントで実施し、ご寄付いただいた食品をフードバンク活動を行う団体に寄付する予定である。実際の回収量やフードバンク団体への寄付の効果などを踏まえ、フードバンク活動を行う団体との連携の方法などを、より具体的に考えていきたいと思っている。</p>
委員	<p>今後、計画のなかに食品ロス削減を位置づけて掲載するというのでよいか。</p>
リ課長	<p>現在の計画は令和7年度までの計画なので、今すぐ盛り込むということにはならない。ただし、いずれかの時点で計画を見直す際、食品ロス削減や廃プラスチック問題について盛り込むことになると思う。国民運動として食品ロスの削減を推進する、との国の方針もあるので、食品ロス削減に区として積極的に取り組んでいきたいと思っている。</p>
部長	<p>計画は平成28年3月に策定したものなので、食品ロス削減について詳しい内容を盛り込んでいない。計画に言葉としてはっきりと位置づけはしていないものの、燃やすごみの中の食品ロス(未利用食品)への言及、めぐろ買い物ルールのなかの「買いすぎない」、「作りすぎない」取組の推進等として盛り込んでいる。今後の計画改訂の際には検討する。なお、本年度区として食品ロス削減に大きく取り組んでいこうと考えている。</p>
会長	<p>日本人には「利便性」と「効率性」を重視する考え方があると思うが、現在、外国で</p>

	<p>は、日本とは異なる考え方へ、大きな意識転換が図られている。例えばアメリカでは、使用済みの製品やパッケージなどを家庭から回収し、企業に返すという取組が出てきている。容器はペットボトルも含め、リユースが基本という考え方が世界的な主流になっているようである。外国がこのように急激に変化しているのに対し、日本はもとより目黒区も対応スピードが鈍っているのではないか。</p>
委員	<p>昔は、酒屋にびんを持っていくと返金してくれた。このような日本の取組を世界的に広めるつもりがあるならば、取組に強制力を持たせるのもよいのではないか。</p>
会長	<p>現在、世界は「利便性に反する文明」へと変わりつつある。特に発展途上国がペットボトル禁止・レジ袋禁止への取組を強化している。日本はその動きについていけないようである。</p>
委員	<p>発生抑制と再使用は個人の想像力の問題だと思っている。若い世代への教育が非常に重要。エコライフめぐろ推進協会が出来たとき、ワークショップなどを通じて子供達を教育し、想像力を育むことで、目黒から世界をも動かす子どもたちを育てることをもできる活動が、素晴らしいと感じた。</p> <p>軽井沢のスーパーで、会計後の買い物カゴにマイバッグをセットし、そのまま持ち帰る取組を行っているところがある。これはレジ袋の発生抑制と商品を袋に詰め替える必要がない、という利便性を両立している例であり、市民のワークショップでレジかご用マイバッグが商品化されている。このように利便性・効率性がありながら、発生抑制も達成できる取組を楽しむことが、環境を変えていく重要なポイントだと思う。</p>
	<p><b>(3) 目黒区分別収集計画について</b></p>
リ課長	<p>(資料6により説明)</p>
会長	<p>今年、環境省が打ち出したプラスチック対策には、とうもろこしを原料としたバイオプラスチックに転換するというものがあるが、プラスチック対策については、自治体からもボトムアップしていく必要がある。</p>
部長	<p>本日提供しているペットボトル飲料は、賞味期限間近の防災備蓄品であり、皆様にご協力いただいて食品ロス削減の取組として配布させていただいた。ご理解いただきたい。</p>
委員	<p>世の中に出回っているプラスチックは様々であり、分別が難しい。資源として排出するのは主として「プラスチック製容器包装」となっているが、もっと分かりやすい基準が欲しい。</p>
会長	<p>容器包装リサイクル法（以下「容リ法」という。）に基づき、プラスチックの資源回収を行っているが、法律があまりにも複雑であり、最終的にプラマークの有無を手で分別している。</p>
委員	<p>日本のリサイクルマークと海外のマークが違うなど、分かりにくい。資源になるものとごみになるもの、もっと区別が分かりやすくないものか。</p>
会長	<p>事業者がリサイクル費用を出しているもの、つまりプラマークがついているものだけを資源回収の対象としているが、このようなリサイクルの仕組に進化が見られない。</p>
委員	<p>プラスチックについて、自治体によって資源として回収しているところと燃やすごみとして回収しているところが大体半分ずつ、ということはメリット・デメリットも半々ではないかと感じるが、目黒区はずっとプラスチックを資源として回収する方向で施策をすすめてきている。これは方向性として正しいのか。</p>
会長	<p>最終的には「容器は全て、作った人が回収責任を持つ」という考え方になると思う。先に紹介したアメリカでの取組は、地球を守るというプライドをかけ、企業責任として容器を回収しているものである。SDGsからのよい影響が出ている西欧諸国と日本とでは、現在、完全に差ができてしまっているように感じる。</p>
委員	<p>目黒区で資源として回収されたプラスチックの資源化はどのように行っているのか。</p>

リ課長 目黒区では、ペットボトルは再ペットボトル化などの資源循環を行っている。プラスチックは「マテリアルリサイクル」という方法により、プラスチック製品化等の資源化を行っている。目黒区で収集したペットボトルやプラスチックの選別・保管方法等については、9月に開催予定の施設見学会で見学する機会を設けている。

委員 現在、目黒区のごみは品川清掃工場に搬入しているのか。

リ課長 渋谷・港・品川の各清掃工場に搬入されている。

委員 企業や国が努力して、ごみが出にくい仕組みを作るべきではないか。アメリカなど西欧諸国並みに日本も取り組まなくてはならない。

委員 紹介のあったアメリカの取組は、例えば品物を110円で販売し、容器を戻せば10円返金する、という仕組みなのか。

会長 各家庭に商品を配送する際に、前回配送した容器を回収するという仕組みらしい。毎日ではなく、まとまった期間で行っているのだと思う。

#### (4) 普及啓発事業について

リ課長 (資料7により説明)。

委員 自分のことは自分でやる、という意識啓発が不足している。何でも区がやってくれる、と思っている人が多いのではないかと。誰かにおまかせではなく、自分でやれることはやり、できない部分を周囲(町会や区等)に補ってもらおうという流れを理解することが必要。区の施策には国の方針や予算等様々な制限があるが、そのなかで目黒区は工夫しながらやれることをしっかりやる、という姿勢を区民に発信しなくてはならないと思う。

リ課長 区民が、身近な生活の中で出来ることを普及啓発していく。

委員 (資源とごみの分け方出し方)パンフレットについて、簡易版と2つのバージョンがあってもよいかもしれない。たくさんの情報が掲載され、色の工夫もあると思うが、まずは見づらい印象があるので、改良できる点はあると思う。「見やすさ・分かりやすさ」と「詳しく伝える」2つの両立は難しいとは思いますが、なるべく多くの方に理解される内容のパンフレット作成を心掛けていただきたい。

リ課長 パンフレットの表紙とその裏を概要版として切り取って使えるようになっており、1ページ以降で各論をより詳しく説明するという構成にしている。今後改訂の際には、分かりやすく、かつ必要な情報をしっかり盛り込んだ内容にできるよう、いただいたご意見を参考にしたい。

#### (5) その他

リ課長 次回審議会は10月30日(水)に開催する。また、9月26日(木)に中央防波堤埋立地最終処分場と京浜島リサイクルセンターへの施設見学を予定している。

### 8. 閉会

以 上